

国立大学法人筑波大学長の業績評価結果

I 目 的

国立大学法人筑波大学学長の業績評価に関する要項(平成 27 年 3 月 18 日学長選考会議決定。)に基づき、学長選考会議は、監事との連携協力のもとで年に一度、学長の業績評価を実施する。

II 評価の実施方法

学長選考会議は、監事同席のもと、学長からのプレゼンテーションを実施し、学長と各委員との質疑応答による対話を経て、その業績評価結果の取りまとめ審議を行い、評価を決定する。

III 評価の実施

1 対話の実施日時等

平成 28 年 1 月 26 日 (火) 16 時 35 分～18 時 10 分 (場所：学士会館 3 階「320 号室」)

2 学長のプレゼンテーション

学長のプレゼンテーションの概要は、次のとおり。

(1) 直近 1 年間のマネジメント・ガバナンス改革について

現在、国立大学を取り巻く様々な状況(18 歳人口、国の財政状況等)において、この 1 年間における大学のマネジメント・ガバナンス改革の進捗について説明があり、第 2 期中期計画の最終年度から第 3 期中期計画期間にかけて大学改革の加速期間と位置づけ、本学では①「基礎研究力の強化」、②「社会還元型の開発研究の推進」、③「世界に互換性のある学位プログラム制を推進し、グローバル人材育成を強化」という 3 つの大きな柱を立て、ミッションを着実かつ迅速に進めている等の説明があった。

(2) 平成 26 年度法人業績評価について

平成 26 年度の「国立大学法人評価委員会の業務実績評価」において、学長のリーダーシップの下、国境や機関等の「壁」を越えた教育研究を実現するための国際戦略「Campus in Campus 構想」を策定し、海外大学との相互オフィス設置や共同教育の展開を図る「科目メニューボックスシステム」を構築するとともに、学位プログラム制移行に向けた取組みを積極的に行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいると評価された旨の説明があった。

課題として、国際規制物質の不適切な管理、個人情報の不適切な管理、国立大学病院管理会計システムの不備が指摘されたが、これらについては、新たな管理システムを整備するなど再発防止等に向けて対応しているとの説明があった。

(3) 学長選考時の「所信」及び平成 27 年度「所信」の進捗状況について

①「未来の視点」、②「国際(グローバル)の視点」、③「学生の視点」の 3 つの視点から、「所信」の進捗状況について、主に次のような説明があった。

①「未来の視点」では、大括り入試やナンバリングシステムの導入や海外大学との「Campus in Campus」に加え、国内の私立大学をパートナーとする「Campus with Campus」など将来を見据えた施策により、教養教育や総合智の改革を推進する。

②「国際(グローバル)の視点」では、世界ランキングで分野別 100 位以内を 3 分野以上で達成する。そのため、基盤研究をさらに進化させ、社会還元型の研究、分野横断型の研究も推進するための支援を行っている。教員個人の研究力を上げるために、URA の育成を図るなど制度改革も行っている。

- ③「学生の視点」では、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターを設置した。ダイバーシティの推進として、性別や障害の有無、国籍その他の多様性を尊重し受け入れ、能力をフルに発揮させ、最後にキャリアまでつなげることを目的としている。また、国際交流では、国際部を国際室とグローバルコモンズに改組し、グローバルコモンズにおいて国際交流に係るワンストップサービスを実現した。

3 学長と学長選考会議委員との主な質疑内容等

学長のプレゼンテーションを踏まえ、以下の事項について、学長と学長選考会議委員との質疑応答が行われた。

《大学運営》

- ・将来のトップマネジメントとしての人材育成、部局長の学長指名など、大学運営のガバナンス改革について
- ・人事評価の活用目的について

《教育研究の推進・連携》

- ・職員の活用による教員の負担軽減と研究時間の確保について
- ・既存教員のエンカレッジによる研究力アップについて
- ・URAの育成事業の進捗状況及び技術職員の将来展望について
- ・つくば地区の研究機関との一層の連携推進について
- ・海外の教育研究機関との連携協力の推進について
- ・教育界への人材輩出の方針及び具体的な施策について

《学生支援》

- ・学生への支援と学生自身の意識を高めることについて
- ・学生目線に立った教育改革について
- ・授業料の今後の在り方について

《附属施設構想》

- ・附属病院、東京キャンパス及び附属学校の将来構想について

4 学長選考会議委員からの要望

国立大学協会副会長、大学基準協会会長、中央教育審議会大学分科会会長など学外の要職を兼ね学外においても重要な役割を果たしているが、大学の長であることに鑑み、くれぐれも健康に留意し、バランスをとりつつ学内外それぞれの職責を果たしていただきたい。

IV 業績評価

学長のプレゼンテーション及び各委員との質疑応答を踏まえ、今回の対象項目である当該年度における取組・進捗状況、第3期中期計画期間に向けた状況等、学長所信の状況等を総合的に検討した結果、学長の業務遂行状況は当初計画のとおり順調かつ着実に進捗していると判断する。

また、オブザーバーとして出席した監事からは、日頃から計画どおり物事が進んでいるかというプロセスの部分に重点を置きつつ監査しており、全体として計画に沿って確実に進んでいるという印象を受けたとの意見があった。さらに、法人化の正念場である第3期中期計画・中期目標期間として平成28年度からが非常に重要であり、様々な改革を実施しようとしているところなので、監事もそれをしっかりと監査していきたいとの意向が表明された。

V 評価結果の公表

業績評価結果については、本学のホームページに公表する。